



ふるやしきわり

古屋敷割遺跡

現地説明会資料



(2区)

平成13年度の遺構配置図 (三和村教育委員会 2003『畑田・古屋敷割遺跡発掘調査報告書』)



米山

平成13年度調査区 ↓

旧石器時代	縄文時代	弥生時代	古墳時代	飛鳥時代	奈良時代	平安時代	鎌倉時代	南北朝時代	室町時代	戦国時代	安土桃山	江戸時代	明治時代
-------	------	------	------	------	------	------	------	-------	------	------	------	------	------

古屋敷割遺跡から柏崎市方面を望む (西から)

開催日：令和元年 10月19日 (土)

主催：国土交通省北陸地方整備局高田河川国道事務所

新潟県教育庁文化行政課 公益財団法人新潟県埋蔵文化財調査事業団 株式会社ノガミ

調査の概要

ふるやしきわり
古屋敷割遺跡(上越市三和区上広田字古屋敷割)は、国道253号上越三和道路の建設に伴い、約11,000㎡を対象に平成31年4月から発掘調査を行っています。

本遺跡は、高田平野の東部、保倉川の支流である桑曾根川と飯田川のほぼ中間に位置しています。沖積地の微高地上に立地しており、標高は13~14mです。

調査区は細長く、その中央を農道が横断しており、この農道から西側を1区、東側を2区と呼んでいます。1区はすでに調査を終えており、現在は2区の調査を進めています。なお、2区の北側は、県営ほ場整備事業に伴い、平成13年度に三和村教育委員会によって発掘調査が行われています。



古屋敷割遺跡の位置

1 区の調査成果

1 区からは、土坑10基、溝43条、性格不明遺構1基が見つっています。遺構の大半は平安時代(9～11世紀)のものですが、一部、中世(13～14世紀)の遺構もあります。

遺物は、平安時代の土師器碗・皿・甕・小甕、須恵器杯・杯蓋・甕、鉄製品、砥石などが出土しています。このうちSD62から出土した須恵器杯蓋の内面には墨痕があり、転用硯と思われます。ほかに中世の土器である珠洲焼の片口鉢・甕・壺、鍛冶に関連した遺物である羽口や鉄滓なども出土しています。また、古墳時代の土師器高杯や甕、須恵器ハソウ(後期前半)などがわずかに出土していますが、遺構は見つかっていません。

見つかった遺構のうち、溝SD62は調査区を横断して東西に延びる大規模な溝で、大きさは長さ42.0m以上、上幅2.3～10.0m、深さ0.7～0.8mあります。溝内に砂が堆積していることや、底面が東から西へ向かって傾斜していることなどから水路として利用されていたと考えられます。溝SD62の西側には小さく蛇行するところがあり、その底面付近から平安時代(9世紀代)の土器や鉄滓などがまとまって出土しています。この場所の南壁は緩やかな階段状になっていることから、溝底まで降りて行って、これらの土器を投棄している可能性も考えられます。



1 区 全景 (南上空から)



1 区 溝 SD62 西側蛇行か所

同左 須恵器杯出土状況

1 区は、溝が多く建物などが見つっていないことから、人々が住んでいたところではなく、主に畑などの農用地であったと思われます。

2 区の調査成果

現在調査中ですが、2 区からは、掘立柱建物4棟、土坑または井戸30基以上、溝8条以上、自然流路1条などが見つっています。

遺物は、平安時代の土師器、須恵器のほかに灰釉陶器や風字硯などが出土しています。このうち風字硯は、墨をする面が左右二つに分かれた二面風字硯と思われます。また、古墳時代の須恵器ハソウ(中期後半)などがわずかに出土していますが、遺構は見つかっていません。

なお、2 区の北側は、平成13年度に三和村教育委員会が発掘調査を行っており、平安時代から中世にかけての掘立柱建物11棟、井戸・土坑114基、溝35条が見つっています。

2 区は、まだ調査中であるためはっきりとはわかりませんが、平成13年度に調査された遺跡の続きであることから、平安時代から中世にかけて断続的に営まれた集落であると思われます。



2 区 遺構検出状況 (南上空から、ドローン画像合成)



2 区 掘立柱建物群



2 区 風字硯